

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2011

課題番号：19254005

研究課題名（和文）クメール帝国地方拠点の都市遺跡と寺院遺構に関する研究

研究課題名（英文）Scientific Research on Provincial Ancient Khmer Cities and Temples

研究代表者

溝口 明則（MIZOGUCHI AKINORI）

名城大学・理工学部・教授

研究者番号：20297336

研究代表者の専門分野：建築史学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：クメール帝国、寺院遺構、都市遺跡、カンボジア、街道

1. 研究計画の概要

本研究は、9世紀から15世紀にかけて繁栄したクメール帝国の辺境を含む国土の諸相と周辺諸国との地勢的關係の解明を目的として、当時の主要な街道に沿って造営された地方拠点に関する建築学的・地形学的・岩石学的調査を行うものである。特に首都アンコールより東及び北東へ延びる街道沿いには、いまだ十分に調査のなされていないクメールの重要な都市遺跡・寺院遺構が多数存在している。本研究では、GPS/TPSを用いたこれらの広域的な記録作業（地形図・遺構分布図・平面図・目録・写真記録等）を通して、将来的な保存修復に資する基礎資料を作成するものであり、アンコールを中心としたクメール帝国の領土拡大の様相解明に向けた一助となることを目指している。

2. 研究の進捗状況

(1) コー・ケーでは、悉皆調査を通して新規遺構を含む全127の建築・土木・水利遺構を記録し、遺跡群全域図及び遺構目録、主要34寺院平面図、灌漑用池ラハール及び北方土手断面図等を作成している。寺院及び都市全域の寸法計画、造営過程に関する分析考察を進め、それらの成果を報告書及び論文で発表している。また岩石調査、美術史調査により、遺構の造営年代に関する編年考察を進めている。

(2) ベン・メアレアでは、中心寺院及びバライを含む周辺遺構の実測及び地形調査を進めている。GPS測量によって既存の図面は大幅に修正され、寺院と付属施設、水利施設との有意な関係が明らかになりつつある。バライ中心をなすメボンより発見された彫像片（ナ

ーガに坐す仏陀像）の復原考察も併せて行っている。

(3) コンボン・スヴァイのプレア・カーンでは、GPS測量により伽藍規模と軸線に関する基礎データを取得した。しかしながら現状では道路・宿泊施設等のインフラが十分ではないため詳細な現地調査は困難であり、状況改善を待つことにしている。

(4) プレア・ヴィヘアでは、近年の政情不安により本研究期間での本格的な現地調査は不可能と判断されたが、短期間での予備調査を実施し、今後の保全計画に向けた基礎情報の収集と現状確認を可能な限り行っている。

(5) プラサート・ニャック・ブオス、チュアン・スラム等、プレア・ヴィヘア州北部の14遺構に関する予備調査を実施し、現状確認を行った。その他、ベン・メアレアと関連する遺構として、クーレン山中及び周辺遺構の悉皆調査を実施し、遺構目録を作成している。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

コー・ケー及びベン・メアレアでの調査は順調に進展しており、遺跡群全域図及び遺構平面図をはじめ、既存の情報を大きく更新できる成果を上げている。コンボン・スヴァイのプレア・カーンはインフラ整備がまだまだ不十分であるために現状では短期滞在での調査を余儀なくされ、岩石調査以外は最低限の調査にとどまっている。プレア・ヴィヘアは2008年のユネスコ世界遺産登録をめぐる紛争により事実上調査不可能な状態にあり、同じく岩石調査以外は予備調査の段階にとどまっている。その他、プレア・ヴィヘア州内中小遺構の悉皆調査はアクセス状況と現状

確認を行った段階である。

4. 今後の研究の推進方策

コー・ケーにおける現地調査は終了し、最終報告書作成を残すのみである。ベン・メアレアでは第一及び第二回廊内、及び参道・環濠・バライ・船着き場の実測調査を引き続き行い、最終報告書に向けて図面・目録等を完了する予定である。コンボン・スヴァイのプレア・カーン、プレア・ヴィヘア、その他プレア・ヴィヘア州内の中小規模遺構では、本研究期間での詳細な現地調査は困難であり、実測図面及び目録等の作成は今後の課題として現地の状況改善を待ちながら、可能な範囲での予備調査にとどめるものとする。本研究において対象とした都市遺跡・寺院遺構を広域的観点より捉え、クメール帝国の地方拠点の発展と領土拡大の過程において、総合的な考察を加えるものとする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 溝口明則、中川武、佐藤桂、下田一太、古川大輔、ブラサート・プラムの寸法計画—クメール建築の造営尺度と設計技術に関する研究 (4) -、No.640 (掲載決定)、2010、査読有
- ② 溝口明則、中川武、佐藤桂、下田一太、古川大輔、プラン遺構 (The Prang) の造営方法 —クメール建築の造営尺度と設計技術に関する研究 (3) -、No.640、pp.1449-1455、2009、査読有
- ③ 佐藤桂、中川武、コー・ケー遺跡群と「北東地域」をめぐる議論 —カンボジア、コー・ケー遺跡群の建築史的再考察(その1) -、日本建築学会計画系論文集、No.639、pp.1199-1204、2009、査読有
- ④ Uchida, E., Ito, K. and Shimizu, N. (2009) Provenance of the sandstone used in the construction of the Khmer monuments in Thailand. *Archaeometry*, doi: 10.1111/j.475-4754.2009.00505.
- ⑤ Uchida, E., Cunin, O., Shimoda, I., Takubo, Y. and Nakagawa T. (2008) AMS radiocarbon dating of wood samples from the Angkor monuments, Cambodia. *Radiocarbon*, 50, 437-445.
- ⑥ Uchida, E., Cunin, O., Suda, C., Ueno, A. and Nakagawa, T. (2007) Consideration on the construction process and the sandstone quarries during the Angkor period based on the magnetic susceptibility. *Jour. Archaeological Science*, 34, 924-935.

[学会発表] (計 10 件)

- ① 中川武、溝口明則、下田一太、佐藤桂、古川大輔、百瀬純哉、島田麻里子、チョック・ガルギヤーにおけるクメール古代都市像の解明に向けて (4-1)、日本建築学会大会学術講演、2009
- ② 島田麻里子、中川武、溝口明則、下田一太、佐藤桂、チョック・ガルギヤーにおける寺院遺構の建築的特徴について (4-2) 日本建築学会大会学術講演、2009
- ③ 古川大輔、中川武、溝口明則、下田一太、佐藤桂、チョック・ガルギヤーにおけるリング・神像等の台座について (4-3) 日本建築学会大会学術講演、2009
- ④ 百瀬純哉、中川武、溝口明則、下田一太、佐藤桂、ブラサート・クナ遺構の復原考察 (4-4) 日本建築学会大会学術講演、2009
- ⑤ 溝口明則、中川武、下田一太、佐藤桂、チョック・ガルギヤーに見られる土木工作痕について (4-5) 日本建築学会大会学術講演、2009
- ⑥ 佐藤桂、中川武、溝口明則、下田一太、チョック・ガルギヤー (Chok Gargyar) をめぐる碑文史料 (4-6)、日本建築学会大会学術講演、2009
- ⑦ 内田悦生・田久保豊・豊内謙太郎、クメール帝国地方遺跡に使用されている砂岩材。バンテアイ・チュマール、ベン・メリア、コー・ケルおよびコンボン・スヴァイのプリア・カーンの場合。日本文化財科学会 (名古屋大学)、2009
- ⑧ 内田悦生・下田一太・田久保豊・豊内謙太郎、アンコール遺跡バイヨン内回廊における砂岩材含水率の年変化。日本文化財科学会 (名古屋大学)、2009
- ⑨ 内田悦生・オリビエ=クニン・下田一太・田久保豊・中川武、アンコール遺跡 (カンボディア) の木材に対する14C年代測定。日本文化財科学会 (鹿児島国際大学)、2008
- ⑩ 内田悦生・田久保豊・具志堅史一・佐竹渉・中川武、携帯型蛍光X線分析装置のアンコール遺跡への応用。ラテライトの分類とバイヨン寺院内回廊の石材劣化。日本文化財科学会 (奈良教育大学)、2007

[図書] (計 4 件)

- ① 中川武監修、日本国政府アンコール遺跡救済チーム編、アンコール遺跡調査報告書、2009
- ② 中川武・溝口明則共同監修、早稲田大学建築史研究室編、クメール古代都市チョック・ガルギヤー (コー・ケー) 調査報告書、2009
- ③ 「建築史」編集委員会編、コンパクト版建築史、彰国社、2009
- ④ 中川武監修、日本国政府アンコール遺跡救済チーム編、アンコール遺跡調査報告書、2008